

江東未来会議
第5分科会（行財政運営・協働）
第5回 議事概要

日時：平成19年12月18日（火）19:00～21:00

場所：江東区文化センター2階 PRコーナー

参加人数：13人

1. 開会

2. 本日のワークショップの進め方について

○田中コーディネーター

資料「討議の流れ」を用い説明

- ・本日はグループ討議の最終回となる。本日の討議の結果を踏まえ、分科会としての提言書（案）を作成していくことになる。
- ・第2回から第4回にかけての本分科会での討議結果については、論点整理表として机上に配布している。これはグループ討議が始まる前の討議結果も含まれているので、これをもとに各グループで取り扱うテーマの確定や、論点の漏れがないかどうか確認などをしながら、最終的な議論を進めていただきたい。
- ・また、討議では各グループの目指すべき将来像を端的に示すキャッチフレーズのようなものも決めていただきたい。さらに最後には、本分科会全体で目指す将来像を端的に示すキャッチフレーズのようなものも決めていきたいと考えている。

3. ワークショップ

（1）めざすべき将来像、課題、施策・事業等の確認

（2）重点テーマごとの課題・施策に関するグループ討議

○参加者

- ・論点整理表の内容はすべて踏まえる必要があるのか。

○田中コーディネーター

- ・論点はこれまでの参加者の発言を整理したものであるのですべて踏まえていただきたい。
- ・ただし、将来像としてあげてみたが、議論を進める中でテーマを重点化していくことになったということであれば、その他の部分の取扱については各グループの合意で精査すればよい。
- ・それでは論点整理表の詳細について事務局から説明した後、グループ別の討議に入りたい。

○事務局

資料「これまでの議論内容の整理」（論点整理表）を用い説明

【グループ別に討議】

討議結果は別紙（「第5回 江東区グループ討議記録～行財政・協働～」）参照

（3）全体報告・意見交換

○田中コーディネーター

- ・それでは各グループの討議結果を発表していただきたい。

○Cグループ

- ・将来像のタイトルは「みんなで作る江東区～区民・行政・事業者一体化による責任を持った参画～」とした。
- ・将来像の実現のため、まず「参画の場を設ける」ことが大事である。平成30年には、江東区には多数の参画の場が設けられている。
- ・例えば、施設運営やそこでのプログラムづくりに区民が参画する。区内には同種施設が地域ごとに設置されていることが多いが、まず全館の利用者懇談会で同種施設全体として提供するプログラム内容等を決め、その後各地域施設で取り組んでいくものを分担し、区民参画で実施していく。
- ・つまり、区から画一的に提供されるプログラムに区民が都合を合わせて参加していくのではなく、参加したいプログラムを自ら定め、そのプログラムが区内のどこかの地域の施設で提供されているという形を区民参画で作っていきたい。これにより、区民同士が交流したり、新しい出会いが生まれたりしていくと思う。
- ・次に「情報公開のあり方」である。昨今、インターネットによる情報公開が主流になってきているが、インターネット利用者はまだ40%程度であり、今後、高齢化が進むと比率は低下してくるかもしれない。
- ・こうした状況の中ではやはり新聞の折り込みで宅配される区報は重要であると思う。区報は新聞を購読していない人でも駅や図書館などで入手することができる。この区報を活かしていく必要がある。
- ・現在、区の刊行物が多すぎて、自分が得たい情報をどこで入手できるのかわかりにくい。一度、区民参画で区の刊行物を総点検し、区報とその他分野別刊行物との役割分担を明確にしていくべきである。
- ・また、区報の最後の1ページは区民参画のページとして作成する。ここでは苦情や提案があった場合には、必ず次号でその回答を掲載していくという双方向の情報媒体とし、これは今後1～2年の間に早急に実施する。
- ・参画を促進していくためには「参画を支援する仕組み」が必要である。ボランティアで

あっても必要な支援はしていかなければいけない。例えば、特技や専門能力を持っている人がボランティアで貢献したいと思っているとき、それを求めている人とをつなぐ人材登録の仕組みを作っていく。

- ・参画を促進していく上での一番の問題は、区内在学・在勤者をどのようにして巻き込んでいくかである。例えば、教育現場や通勤環境に対して様々な意見を持っていても、それを伝える場所がないので、今後はヒアリングの場を作っていく。区長への手紙だけでなく、直接声を聞く場を作っていく。
- ・また、関心のない人、ベッドタウンとして江東区に住んでいる人、新住民で独自の取組をしている人達をつなぐ情報ネットワークの構築を目指す。この際、区民は情報を待っているだけでなく、区報、インターネット、CATVなど自ら活用できる情報媒体に積極的にアクセスしていくことが責務となる。

○Aグループ

- ・将来像のタイトルは「3者（区・区民・事業者）協働による行財政評価の実現」とした。区・区民・事業者で構成される行財政評価委員会を設置し、区が実施した事業を評価していく。
- ・行政評価委員会では評価を進めていくうえで、一般区民の参加による新パブリックコメントを実施し、意見を求める。新パブリックコメントは携帯電話等からもアクセスできるようにし、気軽に参加できる仕組みとする。
- ・この結果を踏まえ、委員会では事業の廃止・継続や予算の増減などを決め、その結果を提案として取りまとめ、区に提出する。
- ・区はこの提案を踏まえ予算編成を行い、区議会にて審議される。議会への説明の際には、区は行財政評価委員会からの提案については尊重するよう説明する責任がある。
- ・議決され実施した事業については、5年ごとなど一定期間をおいて再評価を実施しながら改善を図っていく。
- ・なお、行財政評価委員会の提案が最大限尊重されるような位置づけを与えていく必要がある。

○Bグループ

- ・当グループは将来像の実現に向けて4つの方向性を打ち出した。まず、「ミッションの共有」である。例えば、社訓・家訓のような区のミッションステートメントを職員が携帯し、常にミッションを意識できる環境を作る。
- ・2つめは「区民総会」の実施である。民間企業が株主総会を行うように、区も年次決算の際に、区民に対して説明する場を設けていくべきである。これによりオープンでわかりやすい行政になっていくのではないかと。
- ・3つめは区民の声を活かす横断的組織の設置である。志のある職員、区民、事業者の協働により横断的組織を設置し、区民の声に対応していく。日産自動車が経営再建時に設

置したクロスファンクショナルチームのようなイメージである。

- ・最後は「公共サービスをわかりやすく」としたが、これは情報共有のことである。Aグループの発表にあったような新パブリックコメントはとてもよいと思う。デジタルとアナログの両方の活用、区民総会、タウンミーティングなど顔をつきあわせた場などを増やし、情報共有できる環境を整えていく。
- ・他の自治体で掲げられているが「5つ星の区政」を目指して、職員や区民が取り組める仕組みを導入していきたい。

(4) 分科会全体としての方向性の検討

○田中コーディネーター

- ・3グループのキャッチコピーをみると表現方法が若干異なっている。このあたりは次回、グループ共同で検討していただき、当分科会を構成する将来像としてバランスのよい形に仕上げたい。
- ・また、最後にこの分科会全体で目指すべき将来像のキャッチコピーを考えていきたい。各自が自由な言葉で考えてみていただきたい。
- ・本日は時間も限られているので、ポストイットに記載して、次回とりまとめを行うことにしたい。

4. その他（次回の日程等）

○田中コーディネーター

- ・今後の提言書作成に向けてのスケジュール等を事務局から説明いただく。

○事務局

資料「江東未来会議提言書作成に向けた今後の進め方について」「江東未来会議提言書の構成（案）」を用い説明

- ・それでは次回は1月22日（火）の開催となるのでよろしく願いいたします。

(以上)